

プログラム名 (40字以内)	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く		
団体名/所属	農学生命科学研究科附属演習林		
活動区分	農林水産業などに関わる地域体験活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	6人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	意欲的に取り組む主体性と、申し込んだからには絶対にキャンセルしないという本気度(旅行したいなあという軽いノリはご遠慮ください)		
活動期間	2026/3/7(土)～3/11(水)	主な活動予定場所	岡山県瀬戸内市、鏡野町
プログラム実施の目的	日本には失われかけている伝統工芸がある。その一方で伝統工芸を守ろうという取り組みがある。守る取り組みに身を投じることから、伝統工芸を守る意義を知り、社会のありようを考える契機としてもらいたい。		
具体的な内容(800字程度)	炭と聞けばBBQなどに用いる燃料を想起するであろう。消臭剤を想う方もあろうか。その一方で、日本の伝統工芸で様々な樹種の炭をそれらの特性を活かした研磨に用いて来たことはあまり知られていない。漆器や蒔絵などの伝統工芸の完成品には一般も価値を認め注目していると思うが、それら伝統工芸を支える様々な炭があることはほとんど知られていない。そして、そういった炭たちの生産体制がどのような状況に置かれているか、一考する機会もないというのが時代の趨勢といった感がある。例えば駿河炭はアブラギリの炭であるが今では静岡県でこの炭が焼かれることはなく、福井県でほぼそと焼かれているが、将来にわたって焼き続けられる体制ではないということなどは、この東京大学でもまず一顧もされることはない。 もとより樹芸を標榜する演習林樹芸研究所は、アブラギリ林を有すること、それこそ駿河の国にほど近い伊豆にあることから、駿河炭を焼く体制を整え、学生にその意義を唱える教育プログラムの充実を図りたいという思いがあった。しかし、白炭を焼く新窯の設置が必要であるなど、ハードルは決して低いものではなかった。一方、岡山の伝統工芸木炭生産技術保存会では白炭を焼く算段はついていたもののアブラギリの入手に手詰まり感があった。情報ネットワークが発達した現代でなかったならば両者が出会うことは奇跡の様なめぐりあわせが無ければ不可能と言えそうだが、現代においてはこの出会いは必然のようにも思える。この様に始まった協力体制をいち早く東大生に還元したい、その思いからこの体験活動プログラムを立ち上げることにした。 一日目 午後 岡山城・岡山後楽園の見学(この土地の雰囲気インプットしておきましょう) 二日目 備前おさふね刀剣の里にて古式鍛錬・職方(刀鍛冶・塗師・金工師)見学と研磨炭体験 三日目 研磨炭製炭:岡山県苫田郡鏡野町富西谷の窯にて 白炭製炭体験 四日目 生産した研磨炭の検品 五日目 山林整備:岡山県加賀郡吉備中央町杉谷で炭材となるアカマツ植栽地の見学、枝打ち体験		
【総額】参加するための費用	80,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	20,000円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	岡山まで3万円、岡山から先(レンタカー)1万5千円		
【内訳】参加するための費用(その他)	飲食費15,000円		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	汚れます。煙の臭いがつきます		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		